

2021年度事業報告



学校法人 城星学園

はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、2021年度においては、理事長の「2021年度からの学園運営方針(別掲)」に基づいて、各校種が一つになって、学園の建学の精神のもとに教育活動を推進した。なお、2021年度は、未だ新型コロナウイルス感染症拡大が収束せず、3密を避けるため、各学校行事が休止や縮小になるなど、教育活動に多大な影響を被った。こういった状況の中、創立者ドン・ボスコの「こどもを愛するだけでは足りない、こどもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表される教育理念は再認識され、その教育理念のもとに、今後も本学園の教育活動を展開していく。

また、外部に対する情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められており、2021年度においても学園後援会との連携のもと、全保護者あてにアンケートを実施し、貴重なご意見が多数寄せられた。その結果を学園の教育活動に活かしながら、2021年度学校評価としてまとめた上で情報公開するとともに、2022年度に向けてさらに充実した評価活動の実施と教育活動のさらなる充実・推進に繋げていきたい。

《2021年度の学園運営方針》

1. ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。
(AP(司牧責任者)、司牧委員会を中心に、宗教行事を通じて、教職員、園児・児童・生徒のカトリック精神を育む。)
2. 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。
(臨場感のある実地訓練を通じて、教職員の危機対応力、安全管理能力を高める。)
3. 創立70周年(2023年)における学園の将来像を描く。
(生徒募集規模/方法の設計。教職員体制の設計。)

《2021年度取り組み事例》

- ・大阪星光学院との連携事業の実施。
- ・各校種の教育活動及び広報活動等(各校種の活動報告参照)。
- ・各校種の自己評価及び学校評価(全保護者アンケート)の実施。
- ・幼稚園未就園児対象の体験広場や預かり保育等による子育て支援の実施。
- ・学園広報活動の充実(各校種の活動報告参照)。
- ・2022年度総合スポーツ教育センターの設置と2023年度学童保育実施の準備
- ・教員の宗教研修、研究授業・保育の実施。
- ・教育環境の維持向上のために、約2億円の施設・設備投資。
- ・創立70周年記念募金募集開始、70周年記念小冊子作成・70周年記念コンサート開催準備

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

1. 法人の概要

建学の精神 : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命とする。

所在地 大阪府大阪市中央区玉造2丁目23番26号

法人成立の年月日 昭和28年3月25日

学校設置認可年月日

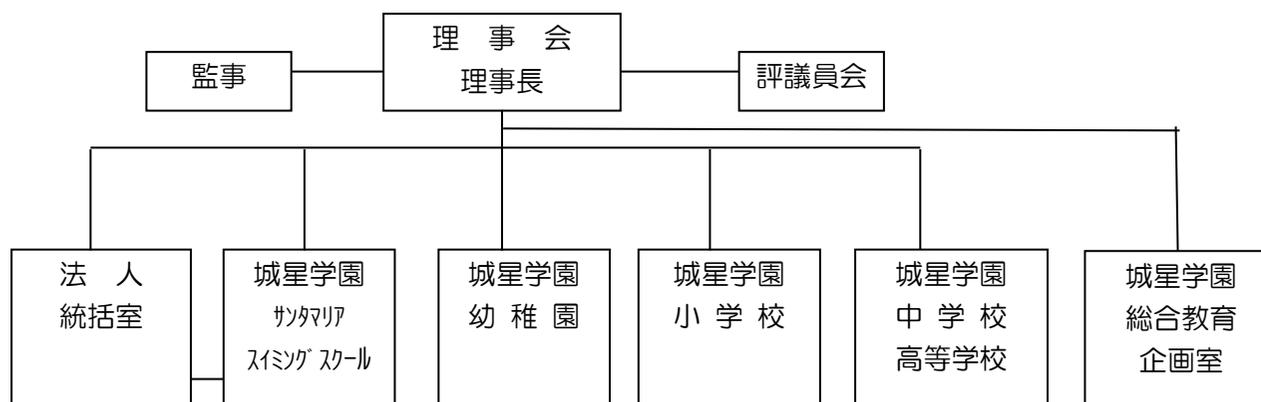
幼稚園 昭和28年3月16日

小学校 昭和28年3月16日

中学校 昭和34年2月27日

高等学校 昭和37年1月14日

学校法人 城星学園 組織図 (2021年4月1日現在)



1) 設置学校及びクラス数

(2022年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園中学校	城星学園高等学校(全日制普通科)
3年保育 3クラス	1年 4クラス	—	1年 Allegro コース 1クラス、Vivace コース1クラス
2年保育 3クラス	2年 4クラス	2年 1クラス	2年 Allegro コース 2クラス、Vivace コース1クラス
1年保育 3クラス	3年 3クラス	3年 1クラス	3年 Allegro コース 2クラス、Vivace コース1クラス
計 9クラス	4年 3クラス	計 2クラス	計 8クラス
	5年 3クラス		
	6年 3クラス		
	計 20クラス		

(2021年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園中学校	城星学園高等学校 (全日制普通科)
3年保育 3クラス	1年 4クラス	1年 1クラス	1年 Allegro コース 2クラス、Vivace コース 1クラス
2年保育 3クラス	2年 3クラス	2年 1クラス	2年 Allegro コース 2クラス、Vivace コース 1クラス
1年保育 3クラス	3年 3クラス	3年 2クラス	3年 Allegro コース 2クラス、Vivace コース 1クラス
計 9クラス	4年 3クラス	計 4クラス	計 9クラス
	5年 3クラス		
	6年 3クラス		
	計 19クラス		

2) 定員および在籍者数(各5月1日現在)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		中学校 (定員 180)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年度)
	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	現員	
2022	9	265	20	624	2	39	8	150	1,078	△16
2021	9	263	19	605	4	68	9	158	1,094	△14

3) 役員等・教職員

役員等:

年 度	理事	監事	評議員
2022	7人	2人	16人
2021	8人	2人	17人

教職員:

(5月1日現在) (人)

年 度	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			法人統括室			S S			計
	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	その他	
2022	13	6	9	27	12	2	1	3	0	17	5	15	10	1	3	2	3	32	161
	計 28			計 41			計 4			計 37			計 14			計 37			
2021	13	3	9	24	13	5	3	4	0	16	7	11	7	7	3	2	3	22	152
	計 25			計 42			計 7			計 34			計 17			計 27			

4) 役員会の開催

① 理事会・評議員会

理 事 会: 2021年 5月
 2021年 8月
 2021年11月
 2022年 3月

評議員会: 2021年 5月
 2022年 3月

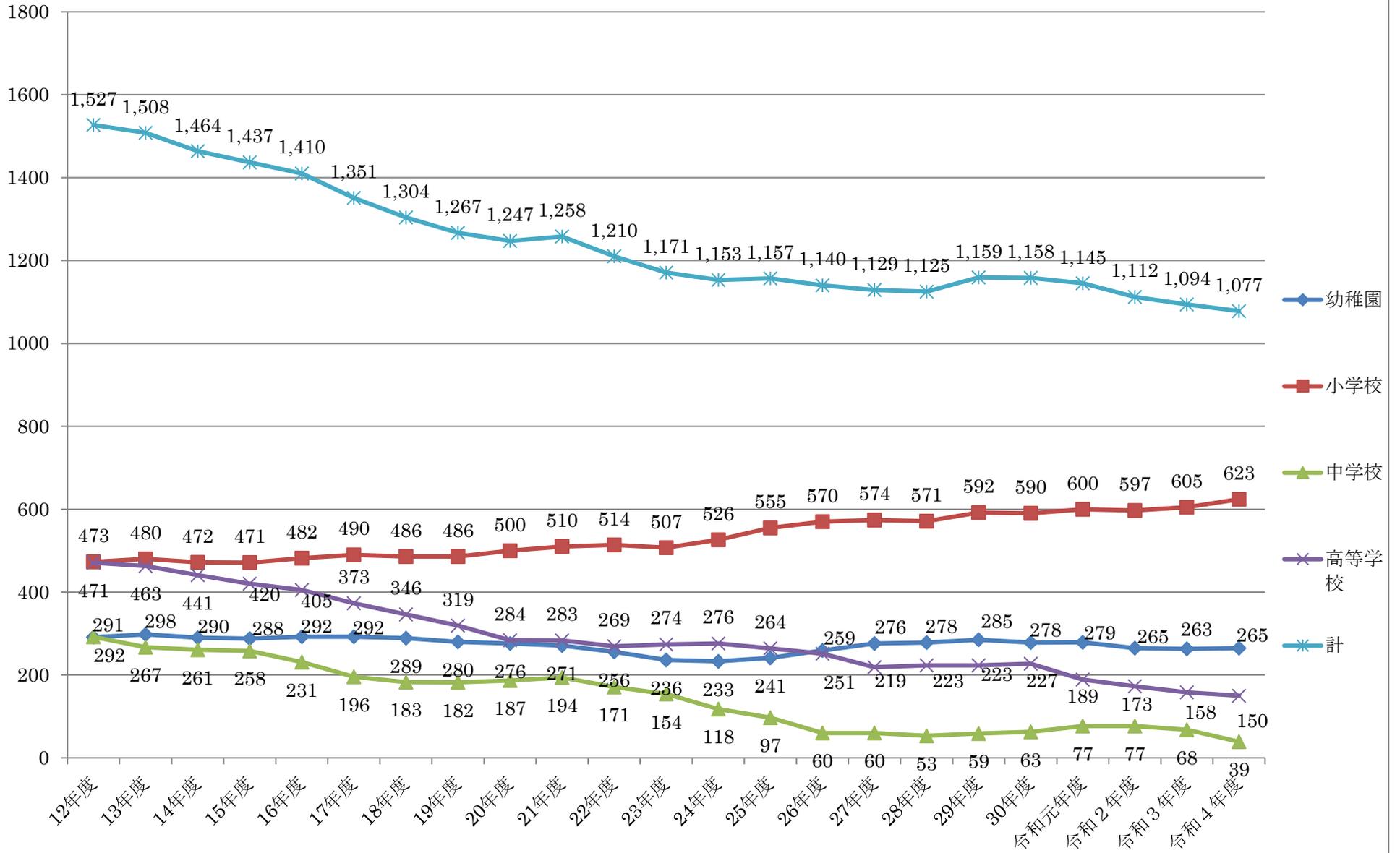
② 監 査: 2021年 5月

2. 募集計画及び教育計画等

()は内部進学者数。 ※別途入園者含む。

年度	区 分	幼稚園			小学校	中学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育			
2023	新入生募集人員	90	若干名	若干名	約100	募集停止	75
2022	新入生募集人員	84	若干名	—	100	—	75
	志願者数	154	10		218	—	52
	受験者数	131	10		195	—	52
	合格者数	102	6		130	—	52
	入学者数	93	5		116 (37)	—	43 (21)
2021	新入生募集人員	84	若干名	—	100	50	75
	志願者数	176	11		213	22	69
	合格者数	106	10	0	151	21	68
	入学者数	90	5		114 (37)	20 (7)	54 (19)

生徒数推移



学校法人城星学園 中期行動計画-2021年度のふりかえり

建学の精神:

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ(ドン・ボスコ)の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

教育理念:

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

【中期方針・2021年度部門別行動計画及びその評価】

《次頁以下のとおり。》

法人統括室

中期方針	2021年度方針	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1. ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する	AP(司牧責任者)、司牧委員会を中心に、宗教行事を通じて、教職員、園児・児童・生徒のカトリック精神を育む	あたたかな雰囲気のある学校をつくり、教職員を育成する	(1)校内の掲示物などの定期的なメンテナンスやリニューアルを行い、視覚的变化につなげる。ドン・ボスコやマリア・マザレロに関する文献等を充実させる	ドン・ボスコ、マリアマザレロの学校であることの意識向上	△
			(2)カトリック関連研修を行う a) 「心の温度が上がる言葉」を積極的に活用する b) ドン・ボスコの軌跡を辿り、慈愛の精神を育む c) 会釈だけでなく声に出して挨拶をするように心がける	信頼関係の深化と学園全体の雰囲気作り	△
			(3)校外で実施されているビジネスマナー研修などに参加する。地域への貢献を深める	マナー力と対人対応力強化・校種を超えた関係性構築・地域との更なる連携	△

2. 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する	臨場感のある実地訓練を通じて、教職員の危機対応力、安全管理能力を高める	教職員の防災意識を維持向上し、実践的な防災行動を定着させる	(1)防災・防犯マニュアルの適時見直しを行い、改めて各校種へ配布する 「城星学園防災ハンドマップ」電子版の作成を検討する	教職員の防災意識向上・災害時に迅速かつ正確に避難できる知識の習得	△
			(2)津波・地震・不審者など、各状況に応じた訓練を行う	有事の際の臨機応変かつ迅速な対応力向上	△
			(3)防災倉庫内のレイアウトを教職員全員が把握できるようにする。 地域との協力関係を構築する	有事に備えた体制強化・地域との連携強化	△

3. 創立 70 周年 (2023 年)における 学園の将来像 を描く	(教育活動内容の 設計)	(A)教育活動の後方支援を充実 させる	(1)中高水泳部クラブ活動の支援 充実及び競技実績づくりを行う。 また、法人統括室の各学校種行 事への協力参加を積極的に行う	教育活動への支援充実と 理解向上	○
			(2)プログラミング授業支援、授業 用機材の貸し出し・定期的なメン テナンスを行う	教育活動の充実及び共有 資源の安全かつ効率的な 活用	○
	(生徒募集規模/方法 の設計)	(B)入試広報と連携し、 ウェブサイトの充実を 図る	(1)部署内でウェブサイトについて の課題を精査したうえで、学園の 強みとアピールポイントをより効果 的に発信する	志願者の増加	△
			(2)感染症拡大に伴うオンラインで の広報の充実化を更に強化させ る	受験生や保護者へのアピ ールと安心感の訴求	△
	(教職員体制の設 計)	(C)各業務の複数担当制 により、業務の安全性 を確保する。	(1)各業務の棚卸を行ったうえで、 各業務マニュアルを作成し、業務 体制における日々の申し送りと統 一した対応を強化する	業務の漏れ防止	△
			(2)後進の職員の育成と積極的な バックアップを行う	業務処理能力の向上と担 当業務の複数化確立による 業務安全性の確保	△
	(施設設備内容の 設計)	(D)認可保育所の開設を 模索する	認可保育所開設案の作成・検討 を行う	待機児童の軽減等による地 域貢献	△
		(E)教育施設・設備の高 度化を図る	充実した中学棟1階多目的室を 完成させる	校内施設の機能向上による 教育活動の活性化	○

総合教育企画室

中期方針	2021年度方針	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1. ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する	AP(司牧責任者)、司牧委員会を中心に、宗教行事を通じて、教職員、園児・児童・生徒のカトリック精神を育む	学園固有の教育方針を堅持しながら、時代の要請に応える学校体制・教育方法を採り入れて、現代的使命を果たす	(1)各校種の行事等において、園児・児童・生徒・教職員がAPのメッセージを通じてカトリック精神を学ぶ機会を増やす	建学の精神の再確認と、学園の一体感の醸成	○
			(2)姉妹校や関連団体における宗教教育・宗教行事についての情報収集を進め、連携・協力の機会を増やす	カトリック関係機関の共助	△
			(3)カトリック学校としての城星学園の特質について、保護者の理解・賛同をさらに高める策を講じる	学園・家庭の協働による教育効果の増大	△
2. 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する	臨場感のある実地訓練を通じて、教職員の危機対応力、安全管理能力を高める	物理的な安全を向上させるとともに、子どもたちの精神面での安全・安心を高める	(1)いじめは園児・児童・生徒の「安全」を脅かす重大な事象であるという認識のもと、その予防と対策についての教職員研修を進める	より幅広い視野での安全と安心の保障	△
			(2)安全・安心に関連する保護者相談対応の事例について、校種を超えた情報共有を進め、ノウハウの蓄積を図る	安全確保のための具体的な対応法の習得	△
			(3)パンデミックへの対応について、保護者の理解・協力のもとで万全の対策を継続する	安全を脅かす喫緊の問題への対応	○

3. 創立 70 周年 (2023 年)におけ る学園の将来像 を描く	(教育活動内容の 設計)	(A)社会的に必要とされる能力 を重点的・効率的に養成する 教育プログラムを策定する	(1)教職員研修の機会を設け、学園の約 70 年 のあゆみを学ぶとともに、今後の教育活動に ついての教職員の意思統一を図る。	教職員の一体感の高揚	○
			(2)各校種の教育活動を他校種の教職員が見 学する機会を増やし、「予防教育法」「アシ ステンツァ」を補完する新たな教育メソッド とともに模索する	検証を通じての教育活動の 質的向上	△
	(生徒募集規模/方法 の設計)	(B)募集関係の統計資料等の 収集・分析を通じて、学園全体 としての柔軟な募集活動をサポ ートする	(1)各校種の案内パンフレット作成に際し、 情報交換・意見交換の機会を増やし、協力を 深めながら学園イメージの一体化と向上を図 る	学園全体としての訴求力の 向上	△
			(2)学園内の「動き」「変化」をプラスのイ メージとともに外部に伝えるための策を講 じ、学園全体として対前年比志願者増を実現 する	学園の「動き」「変化」の広 報的活用	△
	(教職員体制の設 計)	(C)学園全体としての業務分担 を進め、校種間の協力を深める	(1)教育活動における幼稚園⇄小学校⇄中高 の共助を進め、学園教職員全体の能力が効率 的に発揮される体制を作る	マンパワーの効率的活用	△
			(2)新規教職員募集のために、学園の現教職 員が保持する志願関係情報を随時学園に報 告・集積するしくみを準備する	安定的な教職員体制の保 持	○
	(施設設備内容の 設計)	(D)施設・設備の更新・再編成 に際して、学園全体としての最 も有効な活用法を模索する	(1)改修された図書室・会議室(多目的室) を活用した新たな教育関係イベントを企画す る	新施設活用による学園の訴 求力向上	○
			(2)増強されるサーバーを教育活動に積極的 に活用すると同時に、学園教職員の業務効率 化のためにも有効活用する	改良される設備の最大限の 活用	○

幼稚園

中期方針	2021年度方針	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1. ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する	AP(司牧責任者)、司牧委員会を中心に、宗教行事を通じて、教職員、園児・児童・生徒のカトリック精神を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・アシステンツァの理解を深め、カトリックのミッションを具現化していく ・創立者ドン・ボスコ、マリア、マザレロの精神を受け継ぐべく、研修を深める 	(1)カトリックの精神に基づいた教育活動を日々実践するとともにさらに深化充実させていく	サレジアンファミリーとしての自覚と意識改革のもとでの行動変容	○
			(2)ドン・ボスコ及びマリア・マザレロの生き方・考え方を学ぶ研修を通して、予防教育法の理解と実践につなげる	保護者との信頼関係構築と子どもの成長過程への寄与	○
2. 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する	臨場感のある実地訓練を通じて、教職員の危機対応力、安全管理能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育、ならびに時機に応じた避難訓練を実施する ・安全・安心の為の教育環境整備を充実させる 	(1)定期的に訓練を実施しながら、防災・減災・防犯等危機管理意識につなげる	教職員・園児の意識改革と行動変容	○
			(2)安全・安心の為の教育環境整備を徹底し、危険回避を図る	危険箇所や事象の迅速かつ正確な発見と適切な改善	○

3. 創立 70 周年 (2023 年)における 学園の将来像 を描く	(教育活動内容の設計)	(A)教職員の資質向上を図り、 個々のスキルアップを目指す	(1)園内研修会の深化充実と建学の精神に基づいた教育法を継承する	子どもたち一人一人が神のまなざしのもとで誠実に行動し善を選び取れる人格形成の基礎作り	○
			(2)「生きる力」の基礎となる「思考力」「判断力」「表現力」を培う上で、課題解決する力を育む遊びの創出と自主・自律の習慣や態度を身につけるよう導く	園児の協調性や責任感の醸成、自ら考え正しく行動、他者との関係における解決力の習得	△
			(3)草花、野菜の栽培、虫等の小動物の飼育を通して、自然や生命の大切さや畏敬の念を育み、人や物、動植物を大切にすることを醸成する	日常生活の中で物を大切にし自然を尊ぶ気持ちの顕在化、落し物や失くし物の減少	△
	(生徒募集規模/方法の設計)	(B)過去の入試結果の分析に基づいた刷新的な園児募集を行う	(1)園の魅力や教育方針を様々な情報媒体や機会を捉え、積極的に発信する	毎年新入園児 3 クラス 90 名の確保	○
		(2)校種間の連携を強化することで、学園内の進路選択の拡充につなげる	園児・児童間にとどまらず教職員同士、ひいては保護者の理解深化	△	
(教職員体制の設計)	(C)園児・保護者に関する情報の共有を図る	保護者の思いに傾聴し、常に対話の姿勢を持って家庭との連携を図り、信頼関係を基礎としたより強固な教育共同体作りに努める	連帯意識の高まりと、相互の信頼関係の構築	△	
(施設設備内容の設計)	(D)将来的な規模の拡充に照準を当て、施設・設備を見直す	園舎、園庭等の施設設備の改修及び将来的拡充を視野に入れた使用法を模索する	全教職員への参画意識向上と将来像の具現化	○	

小 学 校

中期方針	2021 年度方針	中期行動計画	2021 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1. ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する	AP(司牧責任者)、司牧委員会を中心に、宗教行事を通じて、教職員、園児・児童・生徒のカトリック精神を育む	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する	神父様、AP の指導の下、宗教研修を活性化し、一泊研修等を通して、カトリックに対する理解や教員同士の信頼関係の深化を図る	ミッションスクールとしての存在意義の認識	○
		(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する	ドン・ボスコを初めとする聖人の生き方に倣う。聖書をもとに宗教行事の充実と光の子集会での児童の活動を大切に扱う。宗教科道德のとの関連を図る	児童のカトリック精神に対する意識と実際の行動の変化	○
		(C)保護者の理解度を向上させる	保護者対象勉強会、ドン・ボスコ勉強会を実施し、ドン・ボスコ、マリア・マザレロの教育についての理解を深める	カトリック精神及び創立者ドン・ボスコ・共創立者マリア・マザレロに対する保護者の意識高揚と行動の変化	△
2. 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する	臨場感のある実地訓練を通じて、教職員の危機対応力、安全管理能力を高める	(A)各学年にふさわしい安全教育を実施する	学年別各種教室を実施する。特に下校指導に重点を置き、教師による立番指導、巡回指導を強化する防犯訓練を実施する。	児童及び教員の意識高揚、具体的な行動の確認	△
		(B)危機管理研修を実施する	心肺蘇生法研修を実施する。炊き出し訓練を実施する。新1年生対象に災害時児童引渡し訓練を実施する。	週 1 回の校舎内運動場の安全点検及びけが 0 デー（毎週金曜日）の意識化	○
		(C)避難訓練を実施する	全校避難訓練を年3回実施する二次災害を考えた（津波等）避難訓練を実施する。また、予告なしの避難訓練、防災訓練の実施を考える。	緊急時における防火・防災に関する意識高揚	防災頭巾の使い方や学年学級における訓練のための諸注意はできたが、実際に避難するには至らなかった。

3. 創立 70 周年 (2023 年)における 学園の将来像 を描く	(教育活動内容の設 計)	(A)アシステンツァを励行する	「いつもどこでも子どもと共に」の 実践を図る児童が愛されていると 感じる指導の在り方、言葉のかけ 方を考える	教育効果の向上	○
		(B)聖書黙示録 21 章 5 節を読 み深める	「希望につき動かされて、見よ、わ たしは万物を新しくする」の具現 化に努める	サレジオ家族の一員として の意識化	○
(生徒募集規模/方 法の設計)	(C)学校の魅力を発信する	(C)学校の魅力を発信する	保育所・幼稚園・幼児塾への管理 職、入試担当者と若い教員での 訪問を行い、心と学びの根っこを 育てる教育の発信を行う	2 期生の実施と新入生定員 の確保	△
		(D)説明会・オープンスクール 等を実施する	学校説明会 2 回、オープンスク ール 2 回、zoom 配信による説明 会、個別説明会を実施する。ま た、各幼稚園、塾への案内及び 近隣塾への小規模説明会を実施 する。また、入試速報会を行う	宗教教育をベースにした心 技体バランスのとれた児童 を育成する学校であることと 教育改革の進捗状況の周 知	△
(教職員体制の設 計)	(E)校種間の連携を強化する	(E)校種間の連携を強化する	授業参観や研究授業等を通し て、幼・小・中高の教員の連携を 強化し、交流を図る	幼小中高教員の連携強化	△
		(F)サレジオ一貫教育を強化 し、大阪星光学院との連携を深 める	合同研修会、ほしゼミ、チャレンジ ゼミを継続維持し実施する	サレジオ家族の一員として の意識強化	△
(施設設備内容の設 計)	(G)クラス数増加による施設設 備を拡充する	(G)クラス数増加による施設設 備を拡充する	学級教室及び特別教室と必要設 備品等の確保を行う。また、随時 教員数の増加が望まれる	少人数制学級編成によるき め細やかな教育の実現	○
		(H)既存施設設備の利用を考え る	現在使用している施設設備の有 効利用を考え、教育活動に生か す。温故知新。特に、人数が増え た場合の運動場について考える	今までの考え方を超えた新 しい方法の捻出	△

中学校・高等学校

中期方針	2021年度方針	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1. ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する	AP(司牧責任者)、司牧委員会を中心に、宗教行事を通じて、教職員、園児・児童・生徒のカトリック精神を育む	生徒・教職員・保護者がAPのメッセージに接する機会を増やし、カトリックの価値観の浸透を図る	(1)生徒が日々の学校生活の中で「アシステンツァ」の喜びを実感することができる教育環境を整える	建学の精神のよりよい理解	○
			(2)学校行事を通して「ファッチョ・イオ」の積極的精神を高めることができる教育機会を設ける	生徒の積極性の育成	△
			(3)学校外の生活においても、生徒たちが「アモーレ・ボレッツァ」の実践を心がけるよう指導する	愛を育む人格の育成	○
2. 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する	臨場感のある実地訓練を通じて、教職員の危機対応力、安全管理能力を高める	不安な現状を的確に受け止め、臨機応変、望ましい対策を講じる	(1)ミマモルメを欠席・遅刻連絡のために新たに利用する。また、感染症対策の機敏な連絡のためにも積極的に活用する	生徒の安全確認の徹底	○
			(2)生徒の心の状態を教員集団として多角的に観察し、機敏で的確な対応を行う	教員のアシステンツァの向上	△
			(3)共同生活における公共心と、園児・児童への慈愛の心を育てる	共助の心の育成	△

3. 創立 70 周年 (2023 年)における 学園の将来像 を描く	(教育活動内容の設計)	(A)従来の教育活動を根本的に見直して教育体制を刷新し、それを通じて新たな学校像を確立する	(1)新たなカリキュラム・学校行事・教育メソッド・(学級編成)を確定し、2022 年度からの実施の準備を整える	新たな学校教育の創造	△
			(2)「学びの森」の多様化・柔軟化や、成績評価方法の改定などを学校内外に告知し、教員・生徒双方の意識変革を進める	城星の認知度の向上	△
	(生徒募集規模/方法の設計)	(B)高校生徒募集に全面的に注力し、費用対効果に最大限留意しながら広報活動の取捨選択を進める	(1)2022 年度からの高校教育刷新を印象づける斬新な学校案内を作成し高校入試において専願者 50 名、入学者 75 名を確保する	新ブランドの創造	数値目標未達。定数を満たす受験生の獲得に至らなかった
			(2)SNS 等の活用を通じて中高サイトへのアクセス数を増やすとともに、オープンスクール・学校説明会参加者数 250 名を達成する	募集活動の見直し	数値目標未達、今年度は新しさの定着を図りきれずに、様々な面で急ごしらえの観があった
	(教職員体制の設計)	(C)高校教育刷新のために必要な人員配置を着実・果敢に進める	(1)高校教育刷新における専任教諭・常勤講師・非常勤講師それぞれの役割分担を明確化する	人材の活用	△
			(2)クラブ活動の最適化、高大連携・産学協同による外部リソース活用などを通じて、専任教諭・常勤講師が正課に注力しやすい環境をつくる	教育活動の多様化	△
	(施設設備内容の設計)	(D)学園全体としての施設・設備有効利用という方針のもと、高校教育刷新のために必要な条件の充足を模索する	(1)iPad, Chromebook, ICT 関連機器の活用を進め、教育の個別最適化を通じて生徒の学力向上を図る	新たな学習ツールの活用	△
			(2)改修された図書室、改修予定の会議室(多目的室)を、「特別教室」等として積極的に活用する	自学自習力の向上	○

3. 施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。（500万円以上のもの）

	工事・設備名	金額：円
①	中学棟多目的室更新工事等	115,170,000
②	教育研究システム及びファイルサーバーの更新	29,216,000
③	FW 及び各種スイッチ更新	8,250,000
④	幼稚園床更新工事	7,260,000
⑤	体育館 2階部室空調設備新設工事	6,380,000
⑥	高校棟屋上手摺塗装・立ち上がり塗膜補修工事	5,907,000
⑦	講堂ほか LED 更新工事	5,500,000
⑧	幼稚園送迎用ハイエース購入	6,126,960

財務状況（報告）

次のとおりであるが、今後、各校種の適正な学費の設定、人件費比率の改善、各経費の見直し等を行いながら、収支の改善・安定を求めていく。

